S9

ラサのチベット手話使用者における言語越境および記号現象レパートリー：チベットと中国の手話体系のはざまで

テレジア・ホーファー
（ブリストル大学［イギリス］）

要旨

いくつもの理論的アプローチが解明しようと試みてきたのが、ろう者コミュニティが日常的に複数の言語を用いているという事実である。多くのろう者は音声言語・手話言語・文字言語を使いこなし、複数の手話言語を操る人も少なくない。さらに、ろう者は状況によっては聴者と意思疎通を図る必要に迫られることしばしばであり、その場合、聴者は手話言語の運用能力が全くないか、あっても限定的であることが多い。しかし、この状況の結果として生じる複雑で頻繁な言語間・伝達モード間の越境は、数多いろう者の実際の言語経験であるにも関わらず、これまでの手話言語・音声言語の研究手法では容易に記録することができないし、そもそも手話言語・音声言語のどちらの研究分野でも十分な理論化が進んでいない。それどころか、頻繁な言語越境は、コントロールされた言語実験・観察手法を用いる場合は特に、研究上の問題点扱いされている。本発表では、手話言語使用者の複数言語使用・複数モード使用の理論化について、最近の重要な進展のレビューを行う。本発表で論じるのは古典的なコードスイッチングの研究（Myers-Scotton 1997）、言語越境理論（García & Wei 2014; Otheguy, García & Reid 2015）、そして、様々な手話コミュニケーションの重要な分析をもたらした、記号現象レパートリーの研究に基づく新たな研究の方向性（Kusters, Spotti, Swanwick & Tapio 2017）である。しかる後、さらに幅広い枠組みについて考察する。その枠組みは言語学と社会人類学を基盤とするもので、そこでは記号現象は言語をはじめとしてあらゆる記号の体系を含むものとして扱われる。この枠組みを利用することで、複数の伝達モードにまたがるコミュニケーションとしての記号現象を考察することが可能になる。そのようなコミュニケーションにおいては、複数の伝達モードと複数の言語コードが意図的・非意図的に混用されることで調和が生まれ、また逆に不調和を生み出すことができる（Parkin, Pillen & Hofer 2018）。

発表者が中国チベット自治区の首都ラサでチベット人手話使用者に対しておこなった人類学的調査を例にとり、発表者は上に述べた理論的考察の視点からこれらの現象を分析する。分析の対象には、チベット手話と中国手話の混合使用、その際のいわゆる「自発的サイン（rang-jung lag-da）」の位置付け、さらには文字言

語としてのチベット語・中国語およびそこから拡張された体系、たとえば画面上で文字表記・視覚的要素・絵文字を組み合わせるものなども含まれる。発表の過程で、ろう者どうしの対話に加え、市場や喫茶店、学校、家庭、さらにはソーシャルメディアを通じたろう者と聴者との対話をみる。
「人間言語への理解を深めること」というこの学会の目的に鑑み、本発表は、新たな民族誌学的研究成果を発信し、人類学と手話言語・音声言語の言語学という二つの学問の間で関連のある部分を理論的に橋渡しすることで、社会の中の人間言語に対する我々の理解を深めることを意図している。

参考文献

García, Ofelia and Li Wei. 2014. *Translanguaging: Language, bilingualism and education*. Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan.

Kusters, Annelies, Massimiliano Spotti, Ruth Swanwick and Elina Tapio. 2017. Beyond languages, beyond modalities: transforming the study of semiotic repertoires. *International Journal of Multilingualism* Vol.14(3). 219-232.

Myers-Scotton, Carol. 1997. *Dueling Languages: Grammatical Structure in Codeswitching*. Oxford: Clarendon Press.

Otheguy, Ricardo, Ofelia García, and Wallis Reid. 2015. Clarifying translanguaging and deconstructing named languages: A perspective from linguistics. *Applied Linguistics Review* 6(3). 281-307.

Parkin, David, Alex Pillen and Theresia Hofer. 2018. Abstract for the panel on Semiosis as Orchestration for the conference on Materiality, Society and Imagination of the ASA in September 2018 at Oxford University, UK.